

## ● 学校別出題傾向と対策（国語の特徴）

### ①土佐塾中学校の国語

- ・土佐塾中学校は、4科目で500点の配点のうち、国語の配点は150点です。  
試験時間が70分と、かなり長いことが大きな特徴となっています。
- ・長文2題は文学的文章と説明的文章のそれぞれが出題されます。  
恒例となっていた100字程度の課題作文は、近年は条件記述に変更されています。
- ・知識問題は、漢字・語句・文法の中から25問程度が出題され、全体の3割～4割ほどとなっています。
- 70分の試験時間を十分に使って、長い文章でも、要点を押さえてしっかり読めるようにすることと、出題の可能性が残る作文の問題に慣れるようにすることが必要でしょう。
- 過去問を使つての練習は、10月以降、いろいろな学校の入試問題にあたることが有効と言えるでしょう。

### ②学芸中学校の国語

- ・学芸中学校は、4科目で600点の配点のうち、国語の配点は200点です。  
1日目の試験時間が60分、2日目が40分です。  
1日目には長文の読解問題が2題出題されます。  
2日目には短い読解1題と、漢字や言葉、文法の知識問題が出題されます。
- ・知識問題は漢字、文法、慣用句、熟語、表現技法など、幅広い知識問題が出題され、全体の4割ほどとなっています。  
2日目の知識問題では、文の構成を問う主語・述語は、必ず出題される問題です。
- ・文や段落の整序問題も多くみられます。
- ・時間のかかる、50字～80字の記述も、毎年数問ずつ出題されます。
- とりわけ、目立つのが記述と、知識問題ですから、文章を書く機会や自分の意見を言う機会を増やし、十分な語彙や表現力を身につけることが望まれます。
- 過去問は、授業でも扱いますが、12月以降、昨年分から5年分くらいは家庭でやっておくとよいでしょう。

### ③土佐中の国語

- ・土佐中学校は、4科目で500点の配点のうち、国語の配点は150点です。  
A・Bのそれぞれ45分の試験時間です。  
A・Bの二つの問題に出題の傾きはなく、読解と知識を合わせた出題になっています。
- ・知識問題の出題は、全体の2～3割となっています。  
漢字は、書き取りの他に、熟語や漢字の構成も出題されます。  
文法は、まぎらわしい語の識別、付属語の用法などの問題が見られます  
語句の意味や、ことわざ慣用句、副詞の投入は頻出の問題です。
- ・近年、課題作文や、80字を超す記述問題が毎年のように出題されるようになっていきます。

●読解・表現・知識、満遍なく国語の力を見る構成で、特に無理な問題は出題されませんが、受験者の得点差が少ないと思われますので、幅広い問題にあたり、失点を防ぐ練習を積んでおくことが必要でしょう。

表現においても、読解の記述・課題作文ともに、本文に即した解答を求められるもので、やはりしっかり読める力をつけることが重要となります。

●過去問は、授業でも扱いますが、12月以降、昨年分から5年分くらいは家庭でやっておくとよいでしょう。

#### ④愛光中の国語

- ・愛光中学校は、4科目で400点の配点のうち、国語の配点は120点、試験時間は60分です。
- ・県内入試には見られない、和語、敬語、俳句や短歌・暦などの季節感を問う問題も出題される。
- ・大きな特徴として、読解問題の解答は、ほとんど記述式になっていて、字数制限はほとんどありません。
- 字数制限のない記述問題に答えるには、必要な言葉を取捨選択しながら、適正にまとめられるようにする練習を積んでおくことが求められます。

また、自分の書いた文をよく読み返して、正確に伝わる文を完成させるようにするなど、丁寧な作業を習慣づけることが望まれます。

#### ⑤ラサール中の国語

- ・漢字や慣用句の問題は、かなり難しいものが出題される
- ・読解問題の解答は、60字ぐらいから100字を超える記述式である
- 文章を要約する力と、文章表現力がなければ太刀打ちできない。  
特に記述の練習問題を多くこなして、対策をしておく必要がある。